

達が片足で一ふみする下に、何と四万匹も住んでいると
るといふのです。しかも地下十五センチまでの間にです。
更に微生物の数を加えると、途方もない数の生物が、ご
く僅かな土の中に、夫々独特の生態を保って住んでいる
ということになります。例えば細菌は、1グラムの土の
中に千六百万個体。放線菌は百三十万個体という具合で
す。土中にはこのような無数の生物が住み、夫々が夫々
の大切な役割を果たしながら、自然を美しく健康な状態に
保っているのです。自然は生きています。

土の中は、私達の目で直接見ることは出来ません。し
その中にも地上と同じように、複雑で神秘にみちた世界
があるのです。そして無数の動物や植物、微生物が互い
に密接に関係しあいながら、生物共同体を作りあげてい
るのです。そして、この共同体は何千年、何万年もの間
安定した平衡状態を保ってきました。人間はこの調和し
た地下の生活者の環境を完膚無きまでに破壊しつつあり
ます。このような人間の利己的行動が、どのような形で
はね返ってくるのか、私達はもう少し謙虚に考えてみる
ことを追われているのではないのでしょうか。

△医師▽

「ヒトの住む星」という本の中に、長野県の佐久地方
で「水田中に投入したワラなどの有機物が腐敗しにくく
なった」という事が書いてあります。この原因は一つに
は、化学肥料に頼りすぎた結果、有機物を分解する微生
物が減ったためであり、更に大きな原因は、土中に大量
の農薬が蓄積し、微生物を殺してしまった為だと考えら
れています。